

防府市消防本部



HOFU FIRE DEPARTMENT

防府市

防府市は、山口県のほぼ中央に位置し、瀬戸内の美しい海に面しています。

市の中央には一級河川 佐波川が流れ、市北部には市境に山々が連なるなど、自然に恵まれ温暖な気候で過ごしやすい土地です。

海沿いには大きな工場が立ち並ぶなど製造業が盛んな一方、防府天満宮や阿弥陀寺など歴史的価値の高い史跡も多く、四季折々の表情を観に訪れる観光客でぎわっています。

職業＝消防士

消防は、あらゆる災害から市民の安全・安心を守ることが使命です。

私達の日常生活は、地震や台風などの大規模な自然災害、火災、交通事故、急病など、様々な緊急事態と常に隣り合わせで、いつ自分の身に何が起こるかわかりません。

もし、市民がこのような状況に直面し助けを求めるとき、私達は、一秒でも早くそこから助け出すことができるよう、日頃から知識と技術を練磨し、心身を鍛え上げ、災害に備えています。

防府市消防本部

消防の組織には様々な形態がありますが、防府市消防本部は1市に1消防本部を置く『単独消防』です。吏員数は144名（R7.4.1現在）で、すぐに全員の顔と名前が覚えることができる人数規模のアットホームな職場です。

消防本部庁舎は、市の中心部に位置しており、女性用の仮眠室や設備を完備しています。東西にはそれぞれ出張所を配置しています。

基本的な管轄エリアは防府市内ですので、勤務先は市内に限られています。そのため、通勤時間は短く転勤による住居変更もないで、マイホーム購入や子育てなど将来設計を立てやすいことも魅力の1つです。



Topics

現在、浸水想定区域内にある消防署東出張所は、防災上安全な場所への移転・建替を進めています。

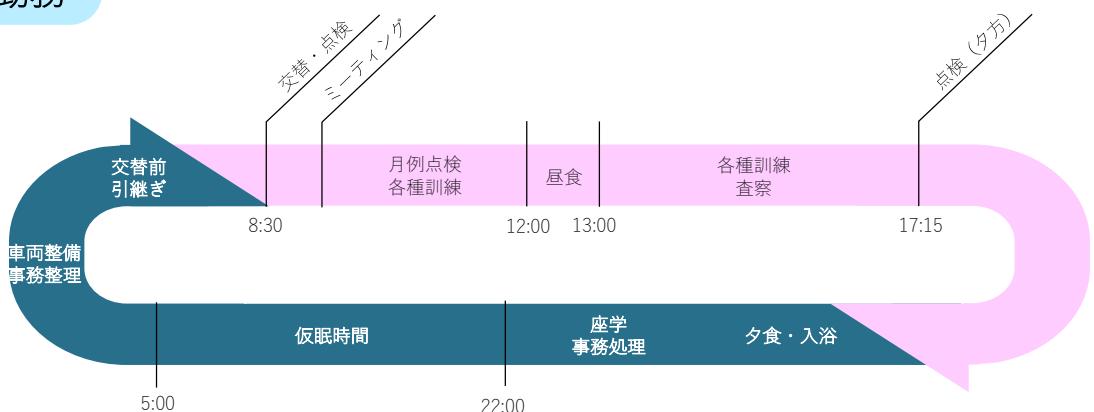
新たな東出張所には、訓練施設のほか、女性職員の当直勤務が可能となるよう女性専用仮眠室等を備える予定としており、女性消防職員の更なる活躍をハード面からも推進しています。

防府消防の概要

人口：112,279人(R 7.4.1現在)
面積：189.37km²
吏員数：144人(うち女性6人)
消防署所：1本部1署2出張所
当直勤務体制 2部制24時間交替

出動件数(R 6年中)
・火災：20件(1.6件/月)
・救助：54件(4.5件/月)
・救急：5,553件(462件/月)
(15.4件/日)

当直勤務



4週間の当直スケジュール

防府消防は2部制の交替勤務 (8:30～翌8:30)

【例】消防隊(奇数日が勤務)の場合

★4週8休(4回の週休日取得)

★奇数日勤務・偶数日非番

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
内 容	当 直	非 番	当 直	非 番	当 直	非 番	週 休 日	週 休 日	当 直	非 番	当 直	非 番	週 休 日	週 休 日	当 直	非 番	当 直	非 番	当 直	週 休 日	週 休 日	当 直	非 番	当 直	非 番	週 休 日	週 休 日	

人事担当者より

防府市消防本部では、年度により募集人数は増減しますが、この数年は毎年職員採用試験を行っています。採用試験スケジュールはおおむね以下のとおりです。

昨年度の試験では、第一次試験で筆記試験及び体力試験、第二次試験で小論文及び面接を実施しました。

消防士に必要な専門知識や技術は、採用後に約7か月間入校する山口県消防学校で修得しますので、受験前に資格を取得しておく必要はなく、年齢資格に該当する幅広い皆さんにチャンスがあります。

市民の安全・安心を守る消防士として、私達と一緒に働きませんか？

皆さんの申し込みをお待ちしております！

4月
中旬

採用試験
実施計画発表

7月
上旬

募集内容発表

9月
中旬

第1次試験

11月
上旬

第2次試験

11月
下旬

最終合格発表

4月
中旬

採用
学校入校

先輩からのメッセージ



吉田 直輝
(令和5年採用)
消防署第二警備室警備第二係

私は中学2年生の時、防府市消防本部で職場体験をさせてもらいました。その際に、声を掛け合って訓練をしている隊員の姿を見て、私もこのような熱意のある職場で働きたいと強く思い、防府消防を志望しました。

職場は、職員同士の仲がよく、若い職員も非常に働きやすい職場だと思います。また、都会の消防と違い、火災・救急・救助など全てに出動する機会があるので、大変ですがとても勉強になります。

初めての建物火災で、防火衣や呼吸器を着装して屋内進入し、人命検索を行ったことは忘れることができません。

現在は、ポンプ隊員として24時間勤務をしています。ポンプ隊は、消防車で水を汲み上げ、火点直近で消火活動を行っている消防車に中継送水を行うのが主な仕事です。また、支援隊として様々な現場に出動します。

活動が終わった際に、市民の方々から感謝の言葉を頂いたときととてもやりがいを感じることができます。また、交替勤務は休みがまとまっているので、自分の趣味に時間を費やせるのがとても魅力的な働き方だと思います。

試験勉強はとても大変だと思いますが、諦めず頑張ってください。
一緒に働くのを楽しみにしています。



塩田 誠
(平成30年採用)
消防署第一警備室救助係

私は、幼い頃から消防士になることに憧れています。

訓練など厳しいこともあります、火災や救急、救助など様々な分野で活動することができ、とてもやりがいを感じることのできる仕事だと思います。

なかでも、現場に配属されて間もない頃に出動した救助事案は、私が救助隊員を目指すきっかけとなりました。そこでは、新人の私が入る余地もなく、救助隊員が迅速な活動で要救助者を救出していたことが深く印象に残っています。

現在は、念願叶って救助係に配属となり、火災や交通事故、水難事故や山岳事故などの現場において人命救助にあたっています。

また、日々訓練を行い、隊員同士でスキルアップに努めています。

救助を求める現場で、最前線に立って活動できることに、とてもやりがいを感じています。

みなさんと防府消防で一緒に働く日を楽しみにしています。



松本 龍
(令和3年採用)
消防署第二警備室救急第一係

私は、3歳から高校生までサッカーを続けてきました。高校3年生になり、特に夢や目標もなく進路に悩んでいた時、身近な人の死に直面することがありました。その時に感じた「いのちを守りたい」という気持ちから命に関わる仕事に就きたいと思うようになりました。

人の命に関わる仕事を調べていくと、医師・看護師・検査技師・放射線技師などたくさんの職種が繋がって命と向き合っていることを知りました。その中でも、医師の指示のもと救命処置を行い、救命救急の最前線で活躍する救急救命士として、生まれ育った防府で市民の大切な命を繋いでいきたいと思いが強くなり、防府市消防本部を志望しました。

生死と向き合う仕事は、精神的な負担も大きく、目を背けたくなる現場もありますが、「いのちを守りたい」という強い気持ちが心の支えになり、だからこそ人の命を繋ぐことができた時や、患者の家族から「ありがとうございます」という感謝の言葉をいただいた事が、一番のやりがいだと思います。

私たちがどんなに頑張っても、残念ながら亡くなってしまう方もいます。人の死と向き合うのはつらいことで、家族の嘆き悲しむ姿に、無力感とやりきれなさを感じます。しかし、私たちがいることで助かる命、次へ繋がる命は必ずあると思います。

一緒に命の最前線で活躍しましょう。



村光 かのん
(平成30年採用)
消防総務課総務係

私が防府消防を志したのは、職業説明会に参加した際、男性消防士と同じ様にロープを渡ったり、消火訓練をこなす女性消防士を見た事でした。

高校では陸上部に所属していたため、女性の中では体力に自信がありました。専門的な知識や技術は、入所してすぐに消防学校で身に付けるのですが、そこで「人を助ける」ことが簡単なことではない事を学びました。

消防学校卒業後は、すぐに現場に配属され、数日後には全焼火災に出動しました。TVでしか見たことない全焼火災にいざ出動すると少し怖さを覚えましたが、それまでの訓練を生かし、他の隊員と協力して消火できた事はとても記憶に残っています。

現在は消防総務課に所属しています。消防士の業務は出動だけではありません。消防総務課は職員の人事給与・福利厚生に関する事務を行っています。現場に出る機会はめったにありませんが、各課を繋ぐ要となり、現場活動を支える縁の下の力持ちだと自負し、業務に取り組んでいます。

女性消防士は男性消防士に比べて体力面では劣りますが、女性が活躍できる場所・場面は必ずあります。女性消防士の活躍できる場所を広げていく事が私の目標です。

「消防士になりたい」という熱い気持ちを忘れず臨んでください。

皆さんと一緒に働く日を楽しみにしています。



安達 優人
(令和3年採用)
通信指令課第一通信指令室通信指令係

私は、中学生の頃から消防士になりたいと思っていました。人を助けたい、誰かのためになる仕事をしたいと思ったからです。また、身近にいた消防職員から仕事内容ややりがいを聞き、より一層消防士になりたい気持ちが強くなりました。

消防という職業は、人の生死に関わるとしても責任ある仕事だと思います。印象に残っているのは、目の前の命を助けることができなかつたことです。全力を尽くして活動をしても、必ずしも良い結果にはなりません。そういう時にはとても悔しい気持ちになります。

消防士の仕事は体力のいる活動が多いと思っていたが、実際は意外とデスクワークも多いなと感じました。もちろん過酷な現場もあるので体力鍛成は欠かせません。

現在は、通信指令課で119番の受報、出動隊への指令、現場との無線交信などを行いつつ、通信機器の維持管理も行っています。通信指令課は現場の最前線です。119番をかけてくる方はとても不安だと思います。自分の声で安心させて適切な処置を指導し、助けを必要としている人の元に少しでも早く安全・安心を届けることがやりがいです。

私たちと市民の安全・安心を守る防府消防の一員になりましょう。皆さんと一緒に働く日を楽しみにしています。

女性消防士が奮闘中



西山 真嘉
(令和4年採用)
消防署第一警備室警備第二係

私は高校生の頃、女性消防士として働いている部活の先輩の姿を見て『この人と一緒に仕事がしたい』と思い、消防士を目指しました。

男性職員と比べ体力も力も不足しており、訓練についていけるのか、現場でしっかりと活動できるのかとても不安でした。しかし、日々の訓練の積み重ねや先輩方の支えもあり、現在では大きな不安も無く働くことができています。

私達の仕事は、常に生死と隣り合わせです。救える命もあれば、最善の活動をしたとしても助けられないこともあります。『もしこの時、こうしていたら…』と思うことがあります。人の生死に関わる仕事は後悔しても取り返しがつきません。だからこそ、日々の訓練で知識、技術を磨き、一つ一つの現場で最善を尽くしていくたいと思います。

現在は消防隊に配属されており、主にポンプ隊として活動していますが、日によっては救急隊員として救急現場や救助現場に出動することもあります。また、現場や訓練だけではなく、法律に則り消防用設備の検査を行う立入検査など事務的業務もあります。

確かに過酷な現場活動も多いですが、市民の方々からの「ありがとう」がこの仕事をしていて良かった、もっと頑張ろうと思える力の糧になっています。

女性は男性が多い職場で不安になると思いますが、女性職員数は増加傾向にあり、現在は6名が様々な部署で活躍しています。優しく頼れる先輩方ばかりで、楽しく働ける職場環境です。

人のために最前線で働く、そんな仕事を私達と一緒にしてみませんか？

